

日 時	令和3年12月15日（水）18:00~19:00
会 場	市役所3階 3D会議室
出席委員	常田委員、西崎委員、岩本委員、西村委員、辻村委員、本宮委員、富士原委員、若林委員、佐々木委員、舟崎委員、嘉屋委員
欠席委員	本間委員、松本委員、佐藤委員
市出席者	【教育委員会】千葉教育部長、後藤教育部理事、下野教育総務課長、花田学校教育課長、富田小中一貫・教育施策推進課長、澤井主査、佐藤主事

1 開会

2 会議の成立

委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していることを事務局から報告

3 議事

会議録の署名委員を富士原委員に指名
事務局から資料に基づき説明

(1) 通学区域審議会の在り方について

- ・ 審議会を進めていく上での視点について
- ・ 現状で適正規模に満たない学校についての調査について
- ・ 新たな学校種の可能性について
- ・ 道内他市の事例について
- ・ 審議会の所掌事務等に収まらない可能性等について

質疑・応答・意見

【A委員】

適正規模に満たない学校について、建築年度がかなり古いところであるが、耐震化の状況はどうなっているのでしょうか。

【事務局】

全て耐震化等の改修が終了しており、基準を満たしているところである。

【A委員】

学校と公共施設の複合化について、学校運営上連携するということなのか、それとも、新しい学校を考える際にそういうものの付設を考えていくということでしょうか。

【事務局】

ひとつの建物の中に、複数の機能を有することを指しています。

【B委員】

教育の観点だけでなく、北広島市として、この北広島をどうしていくのかというビジョンを市民のみなさんに示していく中で検討を進めないと、市民はどうしたらいいかわからないのではないかと思う。

生徒が減って行って、一番損をするのは、子ども達である。中学校に入ってやりたい部活がないだとか、先生方が少ないだとか、子ども達に均等に教育をしていこうとしたときに、そう

ならないように、みんなで一丸となってやっていくべきだと思います。

学校は、地域コミュニティの核であると思いますので、こうしたことを市のまちづくりの関係部署も交えた中で、まちづくりのビジョンを持って議論していくことが重要だと思います。

これからの審議会には、市のまちづくりの部署も入れた中で、まちと学校を今後どうしていくのかという話をしていくのが重要であると思います。

【会長】

- ①学校の適正規模化に向けて、どのような選択をしたとしても、魅力ある学校づくりについてはその選択と合わせて検討が必要な事項であること。
- ②他市の事例を踏まえ、学校の本来望ましい規模・配置等については、基本方針として検討し、実際にどうするかは地域協議会等で個別の事情を踏まえながら検討していくというのは、参考になる事項であること。
- ③基本方針等に、どのように地域に情報発信し、地域の声を聞いていくのかのプロセスを盛り込むことで、前回の審議会で委員からご意見いただいた新たな視点も検討することができ、地域とともに考えていくことにつながるものであること。
- ④通学区域と学校配置は一体的な問題であることから、これを合わせて考えていく必要があること。
- ⑤委員が交代しても、これまで審議してきた過程を次のメンバーに継承していくことも重要な要素であること。
- ⑥組織については、現メンバーにこれから小学生の保護者となる方や、まちづくり等の観点から、地域の代表となる方、市のまちづくり担当部署を入れて検討していく必要性も、持続的な検討を要するこの審議会の性質から考えると必要なことであること。

会長から、上記①から⑥の必要性を踏まえ、現状の通学審議会の所掌事務等では調査・審議すべき事項が収まらない状況であると考えられることから、これまでの審議会の所掌事務を改めて整理した上で、これから小学生の保護者となる方、まちづくりの視点での新しい委員などを加えた新しい審議会などで検討していくことを考えていきたいと提起があり、満場一致で可決し、次回の審議会では、整理すべき新しい審議会の所掌事務及び組織等について調査・審議を行い、教育委員会への答申にどう盛り込むかについて確認をしていくこととして議事を終了した。

(2) その他

事務局から、次回の会議日程を令和4年1月18日(火)18:00からとすることを説明

4 閉会

会議録署名委員

富士原 孝浩